

予 算 要 求 資 料

令和 7 年度 3 月補正予算 支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉦業振興費

事業名 【新】岐阜県の伝統的工芸品導入支援補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 地域産業課 伝統産業振興係 電話番号：058-272-1111(内3786)

E-mail：c11355@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 3,000 千円 (現計予算額： 0 千円)

＜財源内訳＞

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	3,000	1,500	0	0	0	0	0	0	1,500
決定額	3,000	1,500	0	0	0	0	0	0	1,500

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

人々の生活スタイルや嗜好の変化、安価な輸入品の増加に伴い、本県の伝統的工芸品の需要は著しく縮小しており、業績の低迷、後継者確保、技術の継承等の確保といった課題が深刻化している。

上記の課題により、本県の重要な財産である伝統的工芸品をPRするための機会(展示会への出展)も減っており、その「価値」を県内外の消費者に正しく伝えきれていないため、本県の伝統的工芸品の認知度を向上させる必要がある。

(2) 事業内容

県内の宿泊施設や商業施設等が行う、展示等のための伝統的工芸品の購入及び内装・建築工事に建材として活用する経費を補助することで、施設利用者へその魅力を発信する。

＜補助金の概要＞

○補助金名：岐阜県の伝統的工芸品導入補助金

○補助対象者：県内の宿泊施設、オフィスビル、店舗等の県内の伝統的工芸品のPRに効果があると認められる施設

補助対象事業	補助対象経費	補助率、限度額
1. 展示のための岐阜県の伝統的工芸品購入事業	展示用の岐阜県の伝統的工芸品（伝統的工芸品の技術を活用した二次製品含む）の購入、設置に係る経費	補助対象経費の1/2以内 上限1,000千円 下限300千円
2. 建物等の内装等に用いる岐阜県の伝統的工芸品導入事業	伝統的工芸品を活用した内装工事等の建材費（伝統的工芸品の技術の活用、またその二次製品含む）	補助対象経費の1/2以内 上限1,000千円

（３）県負担・補助率の考え方

上記のとおり

（４）類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	3,000	
合計	3,000	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

（１）各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

〔3〕地域にあふれる魅力と活力づくり

（１）地域の魅力の創造・伝承・発信

⑤「『清流の国ぎふ』ブランド」づくり

（２）国・他県の状況

他県においても、県内伝統的工芸品への魅力発信や販路拡大のための支援事業を実施。

（３）後年度の財政負担

継続的な需要の確保を支援していくことが必要であり、毎年同額程度の経費負担を見込んでいる。

（４）事業主体及びその妥当性

伝統的工芸品事業者は人手不足や売上減少により展示会出展等でのPRは困難。本事業にて、民間の宿泊施設等を活用（補助）し、施設利用者へ魅力を発信してもらうことで、展示会出展と同等の効果を得ることができる。

県単独補助金事業評価調書

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	岐阜県の伝統的工芸品導入支援補助金
補助事業者（団体）	県内の宿泊施設、オフィス、店舗等 （理由） 民間の宿泊施設等を活用（補助）することで展示会 出展と同等の効果をj得ることができるため。
補助事業の概要	（目的） 県内の宿泊施設や商業施設等が行う、展示等のための 伝統的工芸品の購入を支援することで施設利用者へその魅力を 発信する。 （内容） ①展示用の岐阜県の伝統的工芸品（伝統的工芸品の技術を活用 した二次製品含む）の導入に要する経費の一部を補助する。 ②伝統的工芸品を活用した内装工事等（伝統的工芸品の技術の 活用、またその二次製品含む）に要する経費の一部を補助す る。
補助率・補助単価等	定率 （内容） ①②補助対象経費の1/2以内 （理由） 補助事業者（施設）に一定割合の負担を求める。
補助効果	伝統的工芸品産業の認知度向上
終期の設定	終期 年度 （理由） 「次年度の方向性」参照

(事業目標)

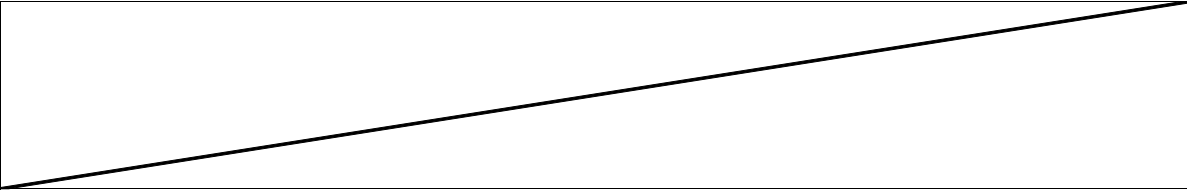
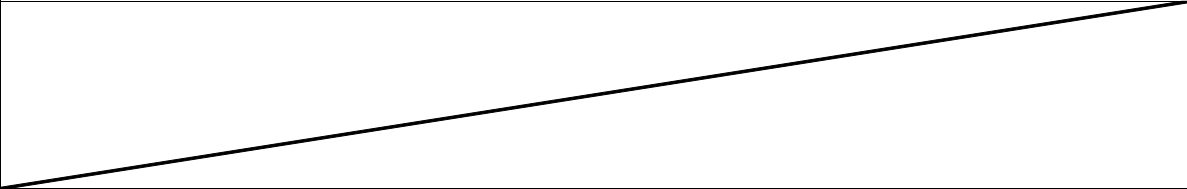
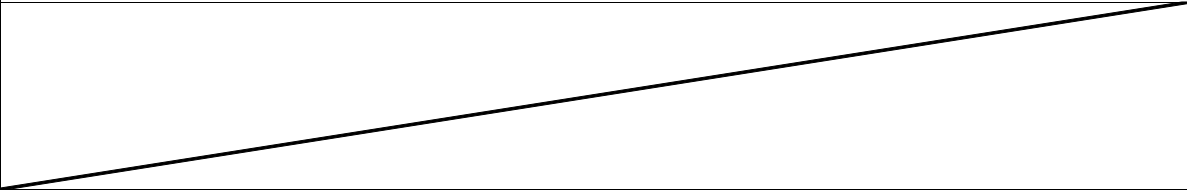
・終期までに何をどのような状態にしたいのか 伝統的工芸品の認知度向上を図り、需要拡大による伝統的工芸品産業の活性化を目指す。

(目標の達成度を示す指標と実績)

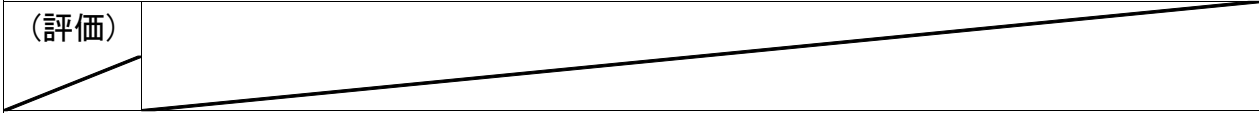
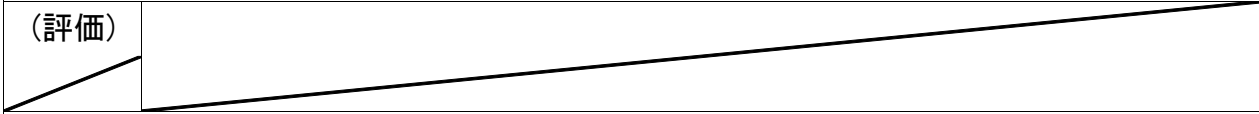
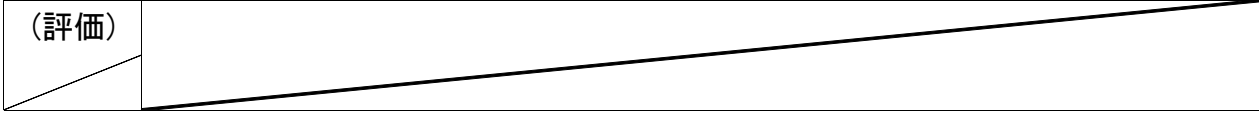
指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
展示施設の年間 来館者数			5,300人	5,300人	5,300人	

補助金交付実績 (単位：千円)	R4年度	R5年度	R6年度

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	 指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和5年度	 指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和6年度	 指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価)	
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50～100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)	
(評価)	
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価)	

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 伝統的工芸品の職人の高齢化等の理由による後継者不足への対応が急務となっている。
--

(次年度の方角性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 伝統産業は、引き続き認知度向上や需要開拓等に係る継続的な支援が必要であることから、事業を継続し、終期到来時の情勢等を踏まえ、継続または廃止等を検討する。
--